

## 愛知の将来像（たたき台）

「豊かな時間を楽しみながら、すべての人が生涯にわたって活躍できる愛知」  
～多様性が尊重される全員活躍型の支え合いの社会へ～

- 2040 年に向けては、外国人住民の増加やLGBTの社会的受け入れ、世帯構成も標準世帯（夫婦と子供 2 人）が減り、単独世帯が増加することが見込まれるなど、社会を構成する主体が多様化していく。
- また、人口減少が進行し、超高齢社会が到来すると、地域社会を支える人材が不足し、一人が何役もこなさなければ社会が維持運営できない時代が到来していると考えられる。
- 一方で、ICTの進展により、働き方や学び方も時間と場所の制約から解放されることが期待されている。
- そこで、すべての人が、自分の時間を自由に使い、望むかたちで社会と関わり、豊かな時間を楽しむことができるような方向で、「一人複数社会」をつくとともに、地域のなかで、人格や多様性を尊重しながら、お互いが支え合う仕組みや、意欲や能力に応じて、「人生 100 年時代」を生涯にわたって活躍できる仕組みをつくっていく必要がある。

「新たな挑戦と未来を拓く創造ができる愛知」  
～世界とつながりを広げながら、柔軟な働き方の中で、  
モノづくりの集積を生かしたイノベーションが創出される社会へ～

- 人材、財やサービス、資本、情報が国境を越えて行き交うグローバル化は今後一層進展していくと考えられ、国内需要が減っていく中で、アジアではGDPが急速に拡大、富裕層も急増し、巨大なマーケットが形成されていく。
- また、生産年齢人口の減少や世界的な人材獲得競争の激化により、高度人材や必要な労働力が確保できなくなるおそれがある。
- 本県の基幹産業である自動車産業は 100 年に 1 度と言われる変革期を迎え、産業構造が大きく変わっていくことが見込まれるとともに、生産性の飛躍的向上に寄与することが期待される第 4 次産業革命が急速に進展していく。
- そこで、アジアを中心とした世界市場を獲得していくため、愛知から世界を舞台に挑戦し、活躍したいと考えるグローバル人材を育成するとともに、海外の留学生、高度人材を呼び込んでいく必要がある。
- また、テレワークや副業など、これまでの固定的な働き方から脱し、自由で柔軟な働き方ができる社会にしていく必要がある。
- さらに、本県の強みであるモノづくりの集積を生かし、未来を拓く新たなイノベーションを生み出していくため、新たな挑戦ができる環境を整備するとともに、そうした挑戦者を増やし、応援する社会をつくっていく必要がある。

「世界から選ばれる魅力的で強靱な愛知」  
～県土をスマートに活用しながら、  
スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏へ～

- リニアの全線開業により人口 7 千万人規模のスーパー・メガリージョンが形成され、世界のメガリージョンとの競争やメガリージョン内での都市間の競争が激化していく。一方、県内においては、名古屋への求心力の高まりとともに、各地域の特色ある拠点都市の都市機能が吸引されていくおそれがある。
- 地域によっては、人口減少が進行し、空き地、空き家が増加し、都市が低密度化していくことが見込まれる。
- さらに、地球温暖化に伴う気候変動や南海トラフ地震、激甚化する風水害など、県民の安全に関するリスクが増大していくことが見込まれる。
- そこで、スーパー・メガリージョンのセンターとして、世界中から人・モノ・カネ・情報が集まる大都市圏を整備していくとともに、名古屋市だけでなく、各地域に拠点となる個性ある都市が存在する多核連携型の地域構造を維持していくため、地域の特性を生かしたまちづくりを実現していく必要がある。  
併せて、愛知ならではの強みを磨き、県民のシビックプライドを醸成しながら、その魅力を世界に発信していくことで、世界から選ばれる魅力的な愛知をつくっていく必要がある。
- また、大都市圏でありながら、豊かな自然環境が近接する、ゆとりある生活空間を保っていくとともに、公共交通機関を始めとする交通手段の最適化を図る MaaS など先進のモビリティ施策を推進するなど、一層効率的なまちづくりを実現していく必要がある。
- さらに、都市基盤として持続可能で災害に強い地域づくりを実現していく必要がある。